

福祉健康科学部門

社会福祉・社会学分野

総説

- 1 齊場三十四：障害者雇用と東京大学の取り組みについて。働く広場 355, 18-23, 2007.
- 2 齊場三十四：障害者の就労・社会（生活）参加を支える新しい交通システム。働く広場 363, 20-27, 2007.

学会発表

地方規模の学会

- 1 °齊場三十四, 村久木洋一, 森田博文：障害者の就労・社会（生活）参加を支える新しい交通システムについて—LRT 機能の検証—. 日本福祉まちづくり学会. 2007, 11, 24. 日本福祉まちづくり九州大会 1, 7~8.
- 2 °藤原映美, 忽那龍雄, 齊場三十四：特定高齢者機能評価—大牟田市の調査から—. 日本福祉まちづくり学会. 2007, 11, 24. 同上 1, 9~10.

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
教授	齊場三十四	フランスベッドメディカルホームケア研究助成		都会と地方における高齢者の支援現場の課題と自立生活力獲得とリハビリテーション機能の関わりとその確立に関する研究	1,000

認知神経心理学分野

著書

- 1 堀川悦夫：Evidence Base Support への展開—転倒, 認知症, そして介護—. 社会生活行動支援概論 社会生活行動支援概論編集委員会 2007.

原著

- 1 He H, Kiguchi K, Horikawa E: A study on lower-limb muscle activities during daily lower-limb motions. International Journal of Bioelectromagnetism. 9, 82-87. 2007.
- 2 堀江 淳, 堀川悦夫：循環障害の維持期理学療法の実践と課題。理学療法 24:11, 1448-1455, 2007.
- 3 森園 亮, 大屋友紀子ほか：身体動揺における一過性の揺れと易転倒性の関連について—地域在住高齢者を対象として—. 身体動揺研究 4, 242-248, 2007.
- 4 堀江 淳, 藤井宏匡, 石原英樹, 堀川悦夫：呼吸リハビリテーションの長期継続効果の検討—教育入院プログラム実施後の外来継続患者について—. 西九州リハビリテーション研究 1, 3-9, 2008.

学会発表

国際学会

- 1 Etsuo Horikawa: Mobility problems of elderly people in Japan. 60th Gerontological Society of America. 2007, 11, 19. Gerontologist.
- 2 Mori S, Tokojima E, Oya Y, Morizono R, Horikawa E: Effects of music therapy on elderly patients living in a nursing home. 60th Gerontological Society of America. 2007, 11, 19. Gerontologist.
- 3 Tokojima E, Mori S, Oya Y, Morizono R, Horikawa: Accidents in care setting for the elderly. 60th Gerontological Society of America. 2007, 11, 19. Gerontologist.
- 4 Morizono R, Mori S, Tokojima E, Oya Y, Horikawa E: Fear of falling and fall risk assessment in community dwelling elderly people. 60th Gerontological Society of America. 2007, 11, 19. Gerontologist.
- 5 Oya Y, Morizono R, Mori S, Tokojima E, Oya Y, Horikawa E: Fall risk assessment and knee extensor muscle strength in community-dwelling elderly people. 60th Gerontological Society of America. 2007, 11, 19. Gerontologist.
- 6 Horikawa E, Morizono R, Nakamura M, Oya Y, et al: Influence of cognitive task on staircase performance in young adults. International Conference on gait and mental function. 2008, 2, 1. Gerontologist.

全国規模の学会

- 1 古賀明美, 堀川悦夫 ほか：2型糖尿病患者におけるインターネットを活用した自己管理評価と講堂の変化。日本糖尿病教育看護学会。2007。

地方規模の学会

- 1 堀川悦夫, 森園 亮, 大屋友紀子：歩行時の身体協調運動解析及び凝視点推定の試み。第3回人工頭脳工学シンポジウム。2007, 3, 4。
- 2 床島絵美, 大屋友紀子, 森園 亮 ほか：ヒューマンエラーとしての介護事故・ヒヤリハットの分析。第3回人工頭脳工学シンポジウム。2007, 3, 4。

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
教授	堀川 悦夫	文科省科研費	基盤研究(B) (代表)	歩行パターン計測と歩行訓練の両機能を有する可搬型電子制御歩行路の開発	5,200
教授	堀川 悦夫	文科省科研費	基盤研究(C) (分担)	糖尿病患者における受診再開支援システムの開発	780

リハビリテーション工学分野

著書

- 1 齊場三十四, 堀川悦夫, 松尾清美：福祉用具と住環境改善による社会生活行動支援。社会生活行動支援概論－医工福祉連携による新展開－ 16-32, 佐賀 2007, 6。

- 2 松尾清美：褥創予防について。福祉用具の活用法 108-120, 北隆館 2007.
- 3 松尾清美：車いすに乗る・座る・車いすで移動する一車いすの機能と環境を考慮した適合方法一。改訂版 車いす・シーティング ―その理解と実践― 221-256, 日本車いすシーティング協会 2007.

総 説

- 1 松尾清美：生活環境と車いすの構造, 車いすの基礎. 日本リハビリテーション工学協会車いす SIG 講習会テキスト2007 in 鹿児島 2月, 22-32, 2007.
- 2 松尾清美：多様な車いすの使い分け, 特集「健康と生活を支援する車いす」. 作業療法ジャーナル VOL.41: No.16, 451-457, 2007.
- 3 松尾清美：交通バリアフリー法. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION Vol.16: Vol. 16, 758-758, 2007.
- 4 松尾清美：福祉用具取り扱い事業における情報の活用について. 地域ケアリング Vol. 9: No.11, 8-11, 2007.
- 5 松尾清美：体験を通して知る車いすの機能：移乗, 日常生活における移乗場面とその方法. 車いす SIG 講習会テキスト2007 in 名古屋 107-118, 2007.
- 6 松尾清美：体験を通して知る車いすの機能：移動, 腰に負担の少ない介助方法と介助操作の確認. 車いす SIG 講習会テキスト2007 in 名古屋 138-141, 2007.
- 7 松尾清美：生活環境と車いすの構造, 車いすの基礎. 車いす SIG 講習会テキスト2007 in 鹿児島 22-32, 2007.

学会発表

国際学会

- 1 Kiyomi MATSUO, Eiji IWTSUBO: A urinary catheter for independent life of the person with spinal cord injury. The 2nd Beijing International Forum on Rehabilitation. 2007, 8, 17-8, 20. The 2nd Beijing International Forum on Rehabilitation 論文集 230-230.

全国規模の学会

- 1 °羽生菜奈絵, °浅見豊子, °江里口誠, °竹下淳子, °児玉香菜子, 松尾清美, 野田直幸：ALS 症例の在宅支援に対する当大学病院におけるチームアプローチー人口呼吸器管理の2例を通してー. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2007, 6. SUPPLEMENT2007 Vol.44, p520.
- 2 村田知之, 松尾清美, 浅見豊子, 大屋友紀子, 森園 亮, 堀川悦夫：多目的トイレの扉とその周囲についての研究（その3）ー扉と袖壁の特徴についてー. 第22回リハ工学カンファレンス. 2007, 8. 第22回リハ工学カンファレンス講演論文集 P25-26.
- 3 松尾清美, 辛皮洋介, 村田知之, 齊場三十四, 平田尚二, 大石真喜男：体圧分散と群れ防止を考慮した3種類のサイズをもった円背の方もくつろげる椅子の開発. 第22回リハ工学カンファレンス. 2007, 8. 第22回リハ工学カンファレンス講演論文集 P159-160.
- 4 松尾清美, 魚住二郎, 木村利和, 木元康介, 小宮雅美：C6 レベル女性頸髄損傷者の自己導尿を可能とするシリコンカテーテルの開発. 第22回リハ工学カンファレンス. 2007, 8. 第22回リハ工学カンファレンス講演論文集 P91-92.
- 5 古賀賢紀, 松尾清美, 松野浩二：コミュニケーション支援を通して. 第22回リハ工学カンファレンス. 2007, 8. 第22回リハ工学カンファレンス講演論文集 P195-196.

- 6 松尾清美, 村田知之, 大川 毅, 三砂範幸, 成澤 寛: 皮膚トラブルへのリハビリテーション工学的支援に関する研究 その1. 現状と今後の課題. 日本褥瘡学会. 2007, 9. 日本褥瘡学会誌 Vol. 9 : No. 3, P417-418.
- 7 松尾清美, 大山美智江, 松原昌三, 井内陽三, 村田知之, 坂田栄二, 埴山 清: 臥位での体圧分散と移乗動作を考慮した床ずれ防止エアマット (P-wave) の開発. 日本褥瘡学会. 2007, 9. 日本褥瘡学会誌 Vol. 9 : No. 3, P429-430.
- 8 松尾清美, 村田知之, 吉田勇一, 守屋聡子, 古賀賢紀, 有菌秀昭, 神山浩明: 容易に前受け姿勢になれるティルティング車いすの開発—その2, 使用評価—. 第23回日本義肢装具学会学術大会. 2007, 11. 第23回日本義肢装具学会学術大会講演論文集 23巻特別号, P238-239.
- 9 秋山菜奈絵, 浅見豊子, 竹下淳子, 江里口誠, 児玉香菜子, 松尾清美, 有菌洋一, 野田直幸: 筋萎縮性側索硬化症に対するコミュニケーション機器支援の検討. 第23回日本義肢装具学会学術大会. 2007, 11. 第23回日本義肢装具学会学術大会講演論文集 23巻特別号, p284-285.

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額 (千円)
准教授	松尾 清美	アバンテ(株)との共同研究	共同研究	車いす適合評価に関する研究	1,052
准教授	松尾 清美	ユニバーサル・ネットワークからの受託研究	受託研究	家具製品の試作品製作に係る男女の体格身体特性の研究と設計プランの提案	250
准教授	松尾 清美	ユニチャーム(株)との共同研究	共同研究	大人用オムツの体圧の測定評価	387
准教授	松尾 清美	ホンダアールアンドエー太陽(株)と(株)岡村製作所との共同研究	共同研究	肢体不自由者対応型椅子及び機の協同開発	390